



私たちは、山の暮らしをとりもどすために、「阿武隈150年の山」構想を掲げています。150年には、2つの意味が込められています。

- ① 30年を半減期とする放射性セシウム137が数パーセントに減る150年先に、阿武隈地域で、山とともにある豊かな暮らしを紡いでいたいという願い。
- ② 明治維新から150年を迎えた今、これまでの開発を優先した日本の地域づくりの考え方を見直し、それに頼らない新たな山の暮らしをつくり直したいという想い。

私たちは、「阿武隈150年の山」構想を実現し持続可能な地域づくりを目指すために、地域の信頼のもと住民を中心に地域の多様な主体が協働する拠点として、非営利で公益的な視点を大切に活動するあぶくま山の暮らし研究所を設立します。

特定非営利活動法人
あぶくま山の暮らし研究所 一同

[アクセス・お問い合わせ]



特定非営利活動法人

あぶくま山の暮らし研究所

Abukuma Sustainable Life Institute (ASLI)

〒963-4701

福島県田村市都路町古道字蒲生河原26-1

(ふくしま中央森林組合都路事業所 旧オガ工場内)

TEL・FAX 0247-75-2055

EMAIL contact@asli.fukushima.jp

HP asli.fukushima.jp



ABUKUMA
SUSTAINABLE LIFE
INSTITUTE



ASLIウェブサイト

あぶくま
山の暮らし
研究所

150年先も、 阿武隈の山とともに。

阿武隈山地に位置する地域には、人が作業しやすいなだらかな地形に広葉樹を中心とした山が広がっています。山の利用は、炭焼きからシイタケ原木へと大きく変わりましたが、変わらずに人々の暮らしを支えてきました。

一帯は、東京電力福島第一原子力発電所事故の放射能汚染により深刻な被害を受けました。私たちは、当たり前のように接していた、山の恵みのありがたさや山に支えられた暮らしの豊かさを、失うことによって改めて気がつきました。

先人が、時代の荒波を越えて山を代々守り伝えてきたように、私たちは、放射能汚染がもたらした被害に向き合いながら、豊かな山の資源を今から150年先の世代にまで手渡せるように、山の暮らしを紡いでいくことを目標にしています。

[活動内容(一部抜粋)]



あぶくまkizuki会議



福島県田村市都路町を拠点に、主に集落単位で開催し、住民と協働して実態調査や計画策定等を行っています。



暮らしに根差した阿武隈150年の山づくり



「阿武隈150年の山」構想のモデルとなる山づくりを行うことを目的に、植林イベントを開催しています。



あぶくま山のワークショップ



阿武隈地域で培われてきた山の暮らしの術を次世代に継承していくためのワークショップを開催しています。

[会員募集・ご寄付のお願い]

活動の仲間となる各種会員を募集しております。また、ご寄付も受け付けております。ぜひ多くの皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

①会員になる

●正会員

(この法人の目的に賛同し、事業に参加する個人)

個人……年会費 3,000円

●賛助会員

(この法人の目的に賛同し、事業を賛助する個人及び団体)

個人……年会費 一口1,000円

団体……年会費 一口5,000円

●サポーター会員

(この法人の目的に賛同し、ボランティアとして各種事業に協力する個人)

個人……年会費 0円

[お申し込み方法]

HPから申込書の書式をダウンロードして、必要事項をご記入の上、メールまたはFAXまたは郵便にてお送りください。書式のダウンロードが難しい場合は、資料を郵送いたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

②寄付をする

おいくらからでも結構です。ご都合の良いときに、可能な金額をご寄付いただけます。

[銀行振込で寄付]

ゆうちょ銀行 八二八 普通 3743200

特定非営利活動法人あぶくま山の暮らし研究所

[寄付募集サイトで寄付]



コングラント:

<https://congrant.com/project/asli/6278>

詳しくはHPよりご覧ください。